

「研究大学コンソーシアム」シンポジウム
@東京国際交流会館 プラザ平成
国際交流会議場

奈良先端大における研究力強化 の取組とURAの活用

奈良先端科学技術大学院大学
学長 横矢 直和
平成29年12月6日



1. 研究大学強化促進事業における取組

(1) 新研究領域創出

チャレンジプログラム

世界に存在感のある研究領域を新たに作る

若手研究者発掘・育成プロジェクト

戦略的研究チーム強化プロジェクト

(2) サステナブル研究力

向上プログラム

トップクラスの研究力を維持・強化する

国際的頭脳循環プロジェクト

先端研究手法導入支援プロジェクト

(3) 戦略的国際共同研究

ネットワーク形成プログラム

世界に研究力を可視化し国際的位置を向上させる

海外研究拠点整備プロジェクト

国際共同研究室整備プロジェクト

URA (University Research Administrator) 機能の強化
世界トップクラスの研究をトータルで支援する体制を確立する



URAディレクター



URA

研究力強化に向けた研究システムの改革

達成目標

研究成果発信の量的・質的強化

論文数の増加

トップ10%論文割合増加

科研費・受託研究費高獲得

国際共著論文割合増加

研究者の多様化・グローバル化

高い若手研究者比率

海外経験教員割合増加

女性・外国人教員割合増加

外国人留学生割合増加

2. その他の主要な組織的取組

日本学術振興会(若手研究者海外派遣事業)

◆ 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム

- 情報社会におけるQ O L 向上のための環境知能基盤の創出
(平成22年度～平成24年度)
- QOLの向上に寄与する環境知能基盤技術の開発と評価
(平成25年度～平成27年度)

◆ 頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム

- ソフトウェアエコシステムの理論構築と実践を加速する分野横断国際ネットワーク
(平成26年度～平成28年度)
- メディア情報学とスポーツ科学の融合による健康社会実現のための国際研究ネットワーク
(平成28年度～平成30年度)

課題創出連携研究事業:「組織」対「組織」の連携

- ◆ ダイキン工業株式会社
- ◆ ヤンマー株式会社
- ◆ サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社

3. テニユア・トラック制による若手研究者の発掘・育成

■ 若手研究者5名をテニユア・トラック特任准教授として採用

- ◆ テニユア・トラック期間は5年。テニユア審査合格後は専任教授として採用
- ◆ 3名がJST「さきがけ」採択
- ◆ 1名が卓越研究員
- ◆ 研究支援(1名あたり)
 - ✓ 約120m²の専用研究スペースを提供
 - ✓ 博士研究員1名の配置(3年間)
 - ✓ スタートアップ予算を自主財源で手当(3会計年で1,600万円)

研究者	専門分野 学際融合領域への展開を意識	着任時期
A(男性)	ナノ高分子材料	平成27年 1月1日
B(男性)	ソーシャル・コンピューティング	平成27年 9月1日
C(女性)	植物共生学	平成28年 4月1日
D(女性)	マテリアルズ・インフォマティクス	平成29年 4月1日
E(男性)	環境微生物学	平成29年12月1日

4. 海外武者修行による若手研究者の国際展開力強化



国際的頭脳循環プロジェクト(研究大学強化促進事業)

■ 若手研究者海外武者修行制度:

若手研究者を対象に概ね1年間の長期在外研究の機会を提供

- ◆ カリフォルニア大学サンフランシスコ校、コロンビア大学、ジョージア工科大学等の有力大学へ13名の若手研究者(助教、准教授)を長期派遣

日本学術振興会(若手研究者海外派遣事業)

■ 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム

- ◆ カーネギーメロン大学、国立情報学自動制御研究所(INRIA)、オウル大学へ18名の若手研究者(博士後期課程学生、博士研究員、助教、准教授)を長期派遣

■ 頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム

- ◆ カーネギーメロン大学、ジョンズホプキンス大学、アデレード大学等へ、9名の若手研究者(博士研究員、助教)を長期派遣

5. 海外研究拠点の整備

海外研究拠点整備プロジェクト

■ 2拠点を設置

- ◆ 本学の助教が常駐
- ◆ 教員・学生も適宜派遣
- ◆ 両拠点を足掛かりに、大学間ネットワークを強化
 - ✓ 在欧日本学術拠点ネットワーク(JANET)に加盟
 - ✓ サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク(JUNBA)に加盟、本学URAが理事に選出(於:第122回JUNBA理事会)



設置先	フランス 国立科学研究センター 材料精緻化・構造研究センター(CEMES) (平成26年10月開設)	アメリカ カリフォルニア大学デービス校 (平成28年3月開設)
研究分野	分子情報材料科学	バイオインフォマティクス
国際誌論文	5報	3報
国際学会・研究会発表	6件	1件
シンポジウム開催	2件(平成26、27年度トウールーズ)	2件(平成26年度デービス及び奈良)
研究者・学生交流	受入4名(計7件)、派遣13名(計18件)	受入7名(計7件)、派遣8名(計8件)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度のシンポジウムでは、その翌年にノーベル化学賞を受賞したJean-Pierre Sauvage教授、Bernard L Feringa教授が講演 ・連携先の教授をクロス・アポイントメント制度を活用して基幹研究室の教授に招聘予定 	

6. 学内における国際共同研究室の整備

国際共同研究室整備プロジェクト

■本学内に3研究室を設置

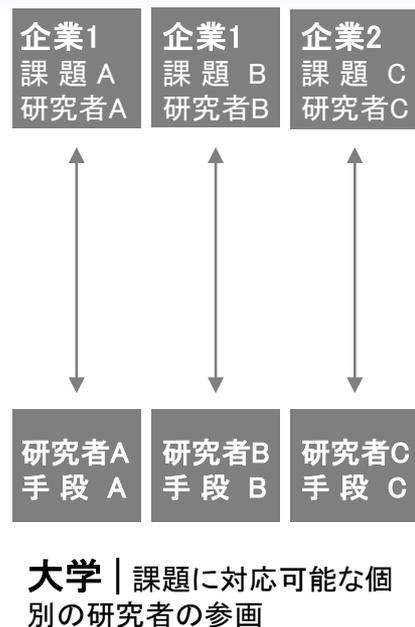
- ◆ 連携先教授の指導下にある特任助教を配置
- ◆ 共同研究目的で連携先から研究者を受入



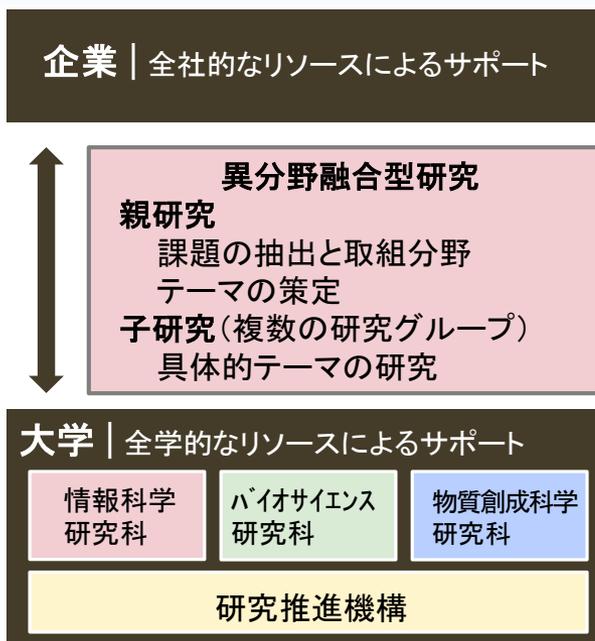
	 アメリカ カーネギーメロン大学 (平成26年9月開設)	 フランス エコールポリテクニク (平成28年2月開設)	 カナダ ブリティッシュコロンビア大学 (平成29年2月開設)
研究分野	ロボティクス・ビジョン	高効率太陽電池素材	細胞分子生物学
国際誌論文	8報	—	—
国際学会・研究会発表	5件	1件	1件
シンポジウム開催	1件 (平成27年度 ピッツバーグ)	—	2件 (平成26年度 バンクーバー、奈良)
研究者・学生交流	受入11名(計14件) 派遣8名(計15件)	受入4名(計4件) 派遣3名(計5件)	受入8名(計10件) 派遣9名(計12件)
備考	アメリカだけでなく、ヨーロッパ、アジア各国と連携して研究を展開		新規共同研究を創出(ワイン・リサーチ・センターと本学・ストレス微生物科学研究室間)

7. 組織レベルでの産学連携研究

従来型共同研究



課題創出連携研究事業



活動

- 定例会議 (3ヶ月ごと)
 - 進捗報告
 - 全体方針の確認
 - 推進テーマの決定
 - 技術セミナー等
- WSの開催 (年2~4回)
 - シーズ紹介
 - 企業方針・課題紹介
 - テーマ議論
 - ブレーンストーミング
- 企業・本学URA間での打合せ (随時)
- 個別研究テーマ推進
企業担当者、本学担当教員、URAで推進

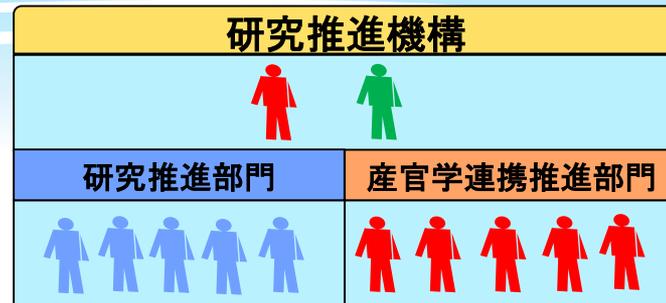
企業名	課題創出連携研究室名	研究開始日
ダイキン工業株式会社	未来共同研究室	平成24年10月1日
ヤンマー株式会社	YANMAR Innovation Lab. 2112	平成25年11月1日
サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社	サントリー課題創出連携研究事業	平成26年11月4日

8. URAの活用

URAの雇用・配置

■ 12名を配置

- ✓ 6名を自主財源雇用 
- ✓ 5名を研究大学強化促進事業雇用 
- ✓ 1名を自主財源雇用にて切替(承継教員の准教授) 



URAの役割

- ◆ 研究戦略策定支援(2名)
- ◆ 研究支援(2名)
- ◆ 国際連携支援(2名)
- ◆ 産官学連携支援(6名)
- ◆ その他関連専門業務(全員)



URAの職務環境の整備

■ URAの人事制度とキャリアパスの整備

